

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

変化していく定時制教育における社会のニーズに対応するため、生徒一人ひとりに応じた教育活動を通じて「自由」と「責任」の真の意味を学びつつ「社会的自立心」を育む。生徒の心身の健やかな成長を支えるために学校と家庭、地域がよりよい関係を築き、魅力ある学校、地域から愛される学校をめざす。

- 1 規律・規範意識を持ち、豊かな心を育成する。
- 2 自己有用感を高めるとともに、個の違いを認め、お互いを尊敬しあう精神を育成する。
- 3 わかる授業の展開により、確かな学力を育成する。
- 4 地域への貢献や連携を図り、地域社会に愛される学校づくりをめざす。

2 中期的目標

1 子どもが安心して成長できる安全な学校の実現

(1) 自尊感情の向上をめざし、自己有用感を高める。

- ア 挨拶を基本とした礼儀・マナーの指導を通して、規律・規範意識を持たせて豊かな心を育む。
- イ 集団生活の中で規範意識を育成し、生徒同士が違いを認め合って生活できるよう指導する。
- ウ 人権感覚を養い、生徒会活動などを通して道徳心・社会性の育成に取り組む。

※目標: 生徒会行事への出席率を高卒編入生以外で60%以上を維持するとともに生徒の肯定的な回答の割合を60%以上にする。

(R1 出席率 64.7%・肯定的な回答 資料無、R2 出席率 64%・肯定的な回答 88%、R3 出席率 69%・肯定的な回答 84%)

(2) 生徒たちが健やかに成長し、生涯にわたり健康な生活を営むことができるよう育成する。

- ア 健康診断の結果を踏まえ、生涯にわたる健康管理のための正しい基本的な生活習慣を確立できるよう、自己管理意識を高める。
- イ 基本的な生活習慣形成の一環として、生活に関するアンケートの見直しを行い、調査だけでなく改善に向けての取組を行う。
- ウ 安全で安心な社会づくりへの参画を意識し、地域と連携して防災・避難訓練等を実施し緊急時に適切に行動できるように生徒と教員の防災対応能力の向上をめざす。

エ いじめやハラスメントなどの問題行動等について、継続的に取り組み、安全な学習環境の整備を進める。

オ 教職員および生徒の環境保全に対する意識や校内美化への意識の向上を図る。

※目標: 早期発見・早期対応に向けていじめに関するアンケートを年間2回以上実施する。(R1 3回、R2 3回、R3 3回)

※生徒アンケートの「安全で安心な学校生活を送れている」の肯定的回答の割合を90%以上にする。(新たな取組)

(3) キャリア教育・進路指導の充実を図り、学校生活や学びに対する目的意識の醸成を図る。

- ア 様々な資格取得に挑戦することを通じて、自ら学ぼうとする意欲や態度を育成する。
- イ 生徒の一人ひとりの希望および適性に応じた進路実現に向けて、進路指導部が中心となって生徒、担任、保護者との連携を図る。

※目標: 資格試験受験者数をのべ60名以上および合格・取得率50%以上をめざす。(R1 64名 R2 79名、R3 79名 37%)

※目標: 学校紹介就職希望者の内定率100%をめざす。[R1 100% R2 100% R3 1月現在 91%]

(4) 生徒の居場所づくりに向けた支援体制の充実を図る。

ア 生徒の成長を取り巻く環境や生徒自身の悩みが複雑化・多様化している中、養護教諭(健康教育部)を中心に、教職員、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカー等の関係者が連携した教育相談体制づくりを図る。

イ コロナ禍における生徒の不安や悩みに対してスクールカウンセラーと連携して生徒の「こころの健康」や「こころのケア」に取り組む。

ウ 全教職員がスクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの役割や学校としての活用方針等を共通理解ができるよう、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等による教員研修会を実施する。

※目標: スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教員対象研修会を年2回以上実施し、参加した教員からのアンケート調査を実施し、肯定的な回答を70%以上とする。(R3 2回(スクールソーシャルワーカー研修会後の講評1回)・肯定的な回答 100%)

(5) 保護者や地域との連携を図るために、学校における情報発信力を高める。

ア 学校行事や生徒会行事などの学校生活の様子を学校ホームページに定期的に掲載することで、地域や保護者が学校への関心を高め、地域ぐるみで生徒の成長を育む。

イ 各種便りの定期的な発行や授業参観日を設定し、保護者に子どもの学校生活の様子を知る機会を増やす。

※目標: 授業参観日を年1回設定する。(R1 1回、R2 および R3 は感染予防のために実施できず)

2 心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力の向上を図る。

(1) 「わかる授業」「魅力ある授業」をめざした授業づくりを進める。

ア 各教科において生徒の学習状況を把握し、基礎的・基本的な学習の学び直しができる授業を展開する。

イ 1人1台端末導入により、ICT 機器や視聴覚教材を活用した生徒にとってわかりやすい授業づくりを実践する。

※目標: 授業アンケートの項目「この授業の難易度は自分にとって適切である」「授業の内容に興味・関心をもつことができた」の肯定的な回答の割合を70%以上にする。(R1 72%・72%、R2 89%・88%、R3 91.2%)

(2) 課題解決能力および実践力を高める授業づくりを進める。

ア 生徒同士が学びあう協働学習を通じて書く力・話す力・発表する力を育成する。

イ ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を多く取り入れて、基礎学力の定着を図るとともに活用する力を育成する。

ウ 専門分野における技能競技会やコンクールに参加することで、実践的な技術を身につけて実社会で生き抜く力を養う。

※目標: 授業アンケートの項目「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている」について、肯定的な回答の割合を70%以上にする。

(R1: データなし、R2: 88%、R3: 89.5%)

※目標: 技能競技会やコンクール等の大会に3回以上出場する。(R1 6回、R2 1回、R3 1回)

3 研修活動の活性化による教員の指導力、授業力の向上

ア 教員間の授業見学期間を設定することで、教員の指導力の向上とともに、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点に立った授業づくりを推進する。

イ 各教科において、授業アンケートを取り入れたPDCA サイクルによる授業改善を推進する。

ウ 情報図書部が中心となって教員の指導力向上に向けたICTに関わる校内研修会の充実を図る。

エ 各分掌・各種委員会等と連携し、教職員の知見を広げ、指導力の向上につながる研修を企画する。

オ 校内の各種ICT 機器の維持活用を図るとともに、情報リテラシー向上に向けた教職員研修を実施する。

カ 支援を要する生徒の教育的ニーズの把握と情報共有を図る。また、特別支援教育に対する教職員の理解を深める。

※目標: 授業アンケートの「先生は、よりよい授業をしようとする意欲や熱意をもっている。」の項目を70%以上にする。(R1 79%、R2 92%、R3 92.4%)

4 働き方改革の推進

ア 教職員の健康増進維持のために、時間外勤務の縮減を図るため教職員への啓発と意識改革を図る。

イ 各種ハラスメント防止に関する意識の啓発を図り、働きやすい職場環境を実現する。

※目標: 教職員対象に各種ハラスメント防止に関する講演会を年1回以上実施する。(新たな取組)

※目標: 令和6年度までに、教職員の平均時間外勤務時間を年々減少させ、令和3年度比3%以上減とする。(R4 1月現在 累計14時間42分)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>生徒回収率:都島工業(定)55%(6件)、都島第二工業 64%(35件)、保護者回収率:都島工業(定)82%(9件)都島第二工業 40%(22件)、であった。生徒と保護者からの更なる回収率を上げる工夫が必要であり、家庭との連携を強化する必要がある。</p> <p>【学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者からはすべての項目において高い評価をいただいた。 生徒「教え方に工夫をしている先生が多い」・「学校は1人1台端末を効果的に活用している」の評価が高くない。 「ビデオ・スライドなどの視聴覚機器やコンピュータなどを使う機会がよくある」・「授業などでコンピュータやプロジェクターを活用している」が高く、授業のICT化が進んでいる。 工業系列における実習など1人1台端末を活用しづらい授業もあるが、効果的に活用できるよう工夫していく必要がある。 「いじめについての対応」・「担任以外の先生に気軽に相談できる」・「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」について生徒・保護者ともに比較的高く評価されている。しかしながら、低く評価している生徒もおり、教育相談等の体制やSSW・SC等との連携をより強くしていく必要がある。 <p>【学校経営】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員の「情報提供の手段として、学校のホームページが活用されている。」 「教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている。」が高い反面、「学校のホームページをよく見る」の回答が生徒・保護者ともに大変低い。学校からの情報提供を周知するためにも学校ホームページをみてもらうよう啓発するとともに、内容について拡充していく必要がある。 「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」が低く、保護者の方に日ごろの学校活動に興味を持ってもらうために参加しやすい行事等を考える必要がある。 	<p>第1回(6月28日【火】)</p> <ul style="list-style-type: none"> 府移管による校務システム等の変更により、業務対応が複雑となり、教職員の負担増加が心配である。 わかる授業の展開のためのICT活用をどう取り組んでいるのか。 多様な生徒の状況に応じた指導をお願いしたい。 <p>第2回(12月15日【火】)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「スクールミッション」(案)の「地域に愛される学校」に関連する具体的な取組みとして、地域清掃活動や地域住民に学校行事への参加等行ってはどうか。 文化祭は生徒会を中心とした内容で非常に良かった。 大阪府高等学校定時制通信制 生徒秋季発表大会は、府立移管後初めての参加であり、今後も引き続き参加して欲しい。 キャリア教育コーディネーターを活用して1年生からキャリア教育を行っていることは非常に良いので今後も継続して取り組んでほしい。 スクールカウンセラーを更に活用し、ストレスマネジメントに通じる心理教育・予防教育を行ってはどうか。 <p>第3回(2月16日【木】)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業アンケート・学校自己診断について、総合学科が本年度からはじまったことから継続的な分析を行ってはどうか。 コロナ禍等により保護者が学校行事等に参加できる機会が以前に比べて少なくなっているが、次年度からは検討して欲しい。 受診報告書の提出数が少ないことについて、学校医と学校が協力しながら増やしていければと考えている。 学校現場でのICT機器の活用が進んでいくと同時に生徒の情報セキュリティや情報リテラシー向上に関する授業や講話等を充実させてほしい。 就職内定者の卒業後の動向について把握できる調査を行って欲しい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
<p>1 子どもが安心して成長できる安全な学校の実現</p>	<p>(1) 自尊感情・自己有用感の向上 ア 規律・規範意識を持たせて豊かな心を育む。</p> <p>イ 生徒同士の違いを認め合って生活できる指導</p> <p>ウ 人権感覚を養い、生徒会活動などを通して道徳心・社会性の育成</p>	<p>(1) ア・教職員による登校時の校門指導を通じて、挨拶を基本とした礼儀、マナーが身につくように指導する。</p> <p>イ・集団生活の中で規範意識を育成し、生徒同士の違いを認め合って生活できるよう指導する。 ・教職員が積極的に生徒に働きかけることで教師への信頼感を育むとともに、自己存在感や充実感を育む。</p> <p>ウ・人権感覚を養い、生徒会活動などを通して道徳心や社会性の育成に取り組む。 ・SNS 等に関わる生活安全講座を外部機関や企業と連携して実施し、指導する。</p>	<p>ア・教職員による登校時の校門指導を通常授業日に行う。 ・全教職員が生徒指導に関する情報を共有し、日常の指導に活かすため、SSW 等が参加した生徒情報連絡会を年2回(4日間)開催する。[年2回4日間]</p> <p>イ・生徒会行事への出席率を高卒編入生以外で 60%以上を維持するとともに生徒の肯定的な回答(学校行事等や教師への相談等)の割合を60%以上にする。[84%]</p> <p>ウ・人権に対する意識を高める講演会、研修会を年1回実施する。[年1回] ・スマホ・ケータイ安全教室および交通安全講習会、を年間各1回実施する。 [年間各1回]</p>	<p>(1) ア・生徒部生徒指導係が校門指導を通常授業日に行っており、全校集会時においても、礼儀やマナーについての指導を行っている。引き続き規律・規範意識を高める指導を行う。(○) ・全教職員、SSW 等が参加する生徒情報連絡会を年2回(4日間)開催し、生徒が抱えている課題等について情報共有した。次年度もSSW等の専門的な助言を受けながら行っていく。(○) イ・生徒会行事への出席率は 66.1%であり、生徒の行事等に対する肯定的な意見の割合は 97.5%であった。次年度も他校生徒会と連携をしながら魅力的な生徒会行事づくりに取り組む。(○) ウ・生徒向け人権研修、講話を各1回(年2回)実施した。(○) ・地域企業と連携し、SNS 等の安全や交通安全に関わる講演を各1回(年2回)実施した。また、生徒集会においても生徒部から生活安全に関わる内容について呼びかけた。(○)</p>
	<p>(2) 健やかな成長と生涯にわたった健康教育 ア 基本的な生活習慣を確立できるよう、自己管理意識の向上</p> <p>イ 基本的な生活習慣形成の一環とした生活改善に向けての取組</p>	<p>(2) ア・健康診断の結果を踏まえ、生涯にわたる健康管理のための正しい基本的な生活習慣を確立できるよう、自己管理意識を高めるとともに、必要に応じて生徒に健康増進について呼びかける。</p> <p>イ・基本的な生活習慣形成の一環として、生活に関するアンケートの見直しを行い、調査だけでなく改善に向けての取組を行う。 ・1月の全校集会で、薬物乱用防止に関する講座を実施、指導する。</p>	<p>ア・受診勧告をしている生徒への個別事後指導を丁寧に行い、受診報告書の提出件数を昨年度よりも5件以上増やす。[提出7件]</p> <p>イ・生活に関するアンケートを取り入れた PDCA サイクルによる生活改善に向けて、保健だよりを年間6回以上発行するなど情報発信を行う。[年間6回発行] ・年1回、薬物乱用防止講座を実施するとともに、保健委員が啓発ポスターを作成し、教室に掲示する。 [年1回]</p> <p>ウ・防災・避難訓練を年1回以上実施する。[年1回]</p> <p>エ・いじめ、いやがらせに関するアンケートを実施し、「安全で安心な学校生活を送れている」の肯定的な回答の割合を毎回 75%以上とする。[90%]</p> <p>オ・保健委員会による一般清掃活動を年 10 回実施し、特別美化清掃を月1回以上実施する。[年 10 回] ・生徒会が主体的に「ECO プロジェクト」を実施する。</p>	<p>(2) ア・受診報告書の提出件数2件であった。(△) 次年度は担任と更なる連携を図り、個に応じた指導を行うとともに、保健だより等をととして生徒全体に呼びかけ、自己管理意識の向上に取り組む。</p> <p>イ・保健だよりを6回発行し、生徒や保護者への情報発信を行った。(○) ・学校行事(文化祭)において、薬物乱用防止に係る講座の実施と地域と連携し外部人材による薬物乱用防止講話を実施した。(○) ・保健委員による薬物乱用防止に関わるチラシを作成し、文化祭で展示するとともにクラスに掲示した。(○) ・次年度も薬物乱用防止としてストレスマネジメントに関わる予防教育にも取り組む。</p> <p>ウ・都島消防署と連携し、防災・避難訓練を実施した。(○) エ・「いじめ等防止対策委員会」を発足し、学校全体で一致した指導・支援に取り組んでいる。 ・いじめアンケートを年3回実施し、「安全で安心な学校生活を送れている」の肯定的な回答の割合が 98%であった。(○) オ・保健委員会による一般清掃活動、特別清掃ともに年 10 回実施した。(○) ・「ECO プロジェクト」として生徒会が使い捨てコンタクトレンズケース回収に取り組んだ。(○)</p>
	<p>オ 環境保全に対する意識や校内美化への意識の向上</p> <p>(3) キャリア教育・進路指導の充実 ア 資格取得の推奨</p>	<p>オ・特別美化清掃の徹底を図るとともに、日常の校内美化に対する意識を促す。 ・昨年度に引き続き生徒会による「ECO プロジェクト」を実施する。</p> <p>(3) ア・卒業後の進路を意識しながら、工業系を中心とする様々な資格取得に積極的に挑戦することを通じて、自ら学ぼうとする意欲や態度を育成する。</p>	<p>ア・資格試験受験者数をのべ60名以上および合格・取得率 50%以上をめざす。 [79名、37%]</p>	<p>オ・保健委員会による一般清掃活動、特別清掃ともに年 10 回実施した。(○) ・「ECO プロジェクト」として生徒会が使い捨てコンタクトレンズケース回収に取り組んだ。(○)</p> <p>(3) ア・資格試験の受験者数は 76 名、合格は 57 名で、合格・取得率 75%であった。(○)</p>

	<p>イ 生徒の一人ひとりの希望および適性の応じた進路実現</p> <p>(4) 生徒の居場所づくりに向けた支援体制の充実 ア 教職員、SC 及 SSW 等の関係者が連携した教育相談体制づくり イ 生徒の「こころの健康」や「こころのケア」</p> <p>ウ SC、SSW の役割、学校としての活用方針等の共通理解</p> <p>(5) 保護者や地域との連携、学校における情報発信力の向上</p>	<p>イ・生徒が「働きたい」と心から思える事業所への内定を得られるよう、一人ひとりの特性に応じた丁寧な進路指導を行う。</p> <p>・生徒が本当に就職したい事業所への内定を得られるよう、一人ひとりの特性に応じた丁寧な進路指導を行う。</p> <p>・外部人材による生徒の期待に沿った講演等のプログラムを実施することで、生徒のキャリア形成を促す。</p> <p>(4) ア・生徒の成長を取り巻く環境や生徒自身の悩みが複雑化・多様化している中、養護教諭(保健部)を中心に、教職員、SC 及び SSW 等の関係者が連携した教育相談体制づくりを図る。</p> <p>イ・コロナ禍における生徒の不安や悩みに対してスクールカウンセラーと連携して生徒の「こころの健康」や「こころのケア」について取り組むために保健だよりや SC 等による講演を実施する。</p> <p>ウ・全職員が SC、SSW の役割や、学校としての活用方針等を共通理解ができるように SC による教員研修会を実施する。</p> <p>(5) ア・学校行事や生徒会行事などの学校生活の様子を学校ホームページに定期的に掲載することで、地域や保護者が学校への関心を高め、地域ぐるみで生徒の成長を育む。</p> <p>イ・各種便りの定期的な発行や授業参観日を設定し、保護者に子どもの学校生活の様子を知る機会を増やす。</p>	<p>イ・学校紹介就職希望者の内定率 100%をめざす。 [100%] ・学校紹介就職希望者の応募先企業への職場見学(過年度のインターンシップ等を含む)の参加率 100%をめざす。 [100%] ・プログラム後のアンケートで、生徒満足度平均 80%以上をめざす。[R3 98%]</p> <p>ア・教職員、SC 及び SSW 等の関係者会議を年 3 回以上実施する。[3 回]</p> <p>イ・利用した生徒に対してアンケート調査を実施し、肯定的な回答を 70%以上とする。 [100%]</p> <p>ウ・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等による教員対象研修会を年 2 回以上実施する。 [年 2 回]</p> <p>ア・生徒会執行部が中心に生徒会行事について学校ホームページ掲載内容を考え、年 5 回以上発信する。 [5 回]</p> <p>イ・学校通信、保健だより、図書館だよりを年間 10 回発行する。 [10 回] ・授業参観日を年 1 回設定する。[感染予防のため実施できず]</p>	<p>イ・学校就職希望者数 10 名中、10 名内定[100%]であった。(○) ・学校紹介就職希望者の応募先企業への職場見学 10 名中 10 名であった。(○) ・地域企業による進路講演会を実施し、生徒満足度は 100%であった。また、ハローワークによる面接指導を実施し、生徒満足度は 100%であった。(○) ・職場見学の活用や企業等との連携や個別進路指導により、就職希望者の意識向上につながったため、次年度も引き続き関係機関との連携を図り指導を行う。</p> <p>(4) ア・課題や事案への解決に向けて教職員、SC・SSW 等の関係者会議(9 回)や都島子育て支援室等とのケース会議(3 回)を開催した。SC・SSW 等地域福祉支援機関からも助言を受けながらチーム学校としての取組を行った。(◎) ・次年度もチーム学校として、SC・SSW の専門家や福祉等の関係機関と連携した教育相談体制の拡充に取り組む。</p> <p>イ・アンケート結果の肯定的回答は 100%(2 名)(○) ・SC の利用の促進のため生徒への働きかけを増やす。</p> <p>ウ・SC 研修会(1 回)、SSW 研修会(2 回 内 1 回は地域福祉機関と連携)を実施した。(○) ・研修後の内容を活かし、生徒の情報共有、助言など SC や SSW と連携して取り組むことができた。</p> <p>(5) ア・生徒会行事についての記事を生徒会が 10 回発信している。(○) ・他校定時制課程生徒の交流会に参加(2 回)し、生徒会活動の活性化に取り組んだ。</p> <p>イ・保健だより(6 回)や図書館だより(10 回)を発行するとともに、学校行事や学校生活について学校 Web に掲載した。(○) ・コロナ感染予防のため授業参観日が実施できなかったが、後援会役員による授業見学の場を設けた(△)</p>
<p>2 心豊かに力強く生き抜くための学力の向上</p>	<p>(1)「わかる授業」「魅力ある授業」 ア 基礎的・基本的な学習内容の学び直しができる授業の展開</p> <p>イ ICT 機器や視聴覚教材を活用した生徒にとってわかりやすい授業づくり</p> <p>(2)課題解決能力および実践力を高める授業づくり ア 生徒同士が学び合う協働学習づくり イ 基礎学力の定着・知識および技能の習得 ウ 技能競技会やコンクールの参加</p>	<p>(1) ア・各教科において生徒の学習状況を把握し、基礎的・基本的な学習の学び直しができる授業を展開する。 ・生徒の進路に合った学習に取り組むための面談を行い、選択した授業に対する充実を図る。</p> <p>イ・1人1台端末導入により、ICT 機器や視聴覚教材を活用した生徒にとってわかりやすい授業づくりを実践する。</p> <p>・積極的に授業に参加し、「働くこと」の役割を理解して将来設計を考える姿勢を養うために、実習科目において実社会でも使える技術を習得する。</p> <p>(2) ア・生徒同士が学びあう協働学習を通じて書く力・話す力・発表する力を育成する</p> <p>イ・ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を多く取り入れて、基礎学力の定着を図るとともに活用する力を育成する。</p> <p>ウ・工業の専門分野における技能競技会やコンクールに参加することで、実践的な技術を身につけて実社会で生き抜く力を養う。</p>	<p>ア 授業アンケート:「この授業の深度や難易度は自分にとって適切である」の肯定的な回答の割合を 70%以上にする。[93%]</p> <p>イ・授業アンケート:「授業の内容に興味・関心をもつことができた」の肯定的な回答の割合を 70%以上にする。 [90%] ・ICT 機器を活用した授業の割合を昨年度より 10%以上にする。[50%]</p> <p>ア・イ 授業アンケート:「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている。」の肯定的な回答を 70%以上にする。[90%]</p> <p>ウ 技能競技会やコンクール等の大会に年 3 回以上出場する。[年 1 回:コロナ禍により予定していた大会が中止]</p>	<p>(1) ア・授業アンケート「あてはまる・ややあてはまる」 83.5%(○) イ・授業アンケート「あてはまる・ややあてはまる」 82.61%(○) ・195 講座中 100 講座[51.2%](○) 校内研修を通して教員全体で取り組むことができた。次年度も引き続き、取り組んでいく。</p> <p>(2) ア・イ 授業アンケート「あてはまる・ややあてはまる」 83.6%(○)</p> <p>ウ・技能競技会やコンクール等の大会参加回数[1 回] (大阪電業協会 第 50 回電気工事士技能競技大会) (△)</p>

<p>3 研修活動の活性化による教員の指導力、授業力の向上</p>	<p>ア 教員の指導力の向上とともに、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点に立った授業</p> <p>ウ 教員の指導力向上に向けた校内研修会の充実</p> <p>エ 教職員の知見を広げ、指導力の向上につなげる研修の充実</p> <p>オ 情報リテラシー向上に向けた教職員研修を実施する。</p>	<p>ア・教員間の授業見学期間を設定することで、意見交換やアドバイスなどによって各教員の指導力の向上とともに、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点に立った授業づくりを推進するために、研究授業や授業見学を実施する。</p> <p>イ 各教科において、授業アンケートを取り入れた PDCA サイクルによる ICT 等の導入等を踏まえた授業改善を推進する。</p> <p>ウ 情報図書部が中心となって教員の指導力向上に向けた ICT に関わる校内研修会の充実を図る。</p> <p>エ 各分掌・各種委員会等と連携し、教職員の知見を広げ、指導力の向上につなげる研修を企画する。</p> <p>オ 校内の各種 ICT 機器の維持活用を図るとともに、情報リテラシー向上に向けた教職員研修を実施する。</p> <p>カ 支援を要する生徒の教育的ニーズの把握と情報共有を図る。また、特別支援教育に対する教職員の理解を深める。</p>	<p>ア・他の授業の授業見学期間を前後期 1 回ずつ(各 2 週間程度)設ける。 [前後期 1 回、各 2 週間] ・他教科の授業や実習も含めて、各教員が年 2 回以上授業見学を行い、その割合を 50%以上にする。 [平均見学回数 2回]</p> <p>イ 授業アンケート:「先生は、よりよい授業をしようとする意欲や熱意をもっている。」の項目を 70%以上にする。</p> <p>ウ・外部講師による年 1 回以上の校内研修会を開催する。 [年 1 回]</p> <p>エ・人権教育・情報教育・防災教育等の各種研修会を、関連部署と連携し行い、教員に対するアンケートで研修の満足度を 70%以上とする。 [100%]</p> <p>オ・ICT 機器を活用した研究授業を年 1 回以上行う。 [1 回] ・教育センター等の情報に関する研修会に参加して校内研修会を 1 回以上実施する。 [1 回]</p> <p>カ・特別支援教育委員会を年 6 回以上開催し、生徒の状況について情報交換を密にする。 [6 回] ・生徒情報連絡会を年 2 回開催し、支援や発達障がいに関する情報の共有と理解を深める。 [2 回]</p>	<p>ア・前期・後期 各 2 週間実施(○) ・2 回以上授業見学を行った教員の割合 28.6%(△)</p> <p>イ・授業アンケート「あてはまる・ややあてはまる」 83.6%(○)</p> <p>ウ・民間企業からの外部講師によるグループウェアのスタートアップ、コア研修を各 1 回実施(年 2 回)(○) ・次年度も教員の指導力向上に向けてグループウェア等に関わる校内研修の充実に取り組む。</p> <p>エ・外部講師による教職員人権研修等の実施 教員アンケート満足度 96.9% (○)</p> <p>オ ・研究授業実施(1 回)(○) ・校内研修実施(1 回)(○)</p> <p>カ・年 8 回開催した。(○) ・年 2 回開催した。(○) 会議では SC や SSW も参加し、生徒の課題解決に向けての助言や生徒の状況についての情報共有を行うことにより、生徒支援についての連携をより密にした。</p> <p>・外部講師による発達障がいに関わる校内研修を実施し、発達障がいに対する理解を深めた。</p>
<p>4 働き改革の推進</p>	<p>ア 教職員の健康増進維持、勤務時間の適正化</p>	<p>ア 教職員の健康増進維持のために、勤務時間の適正化や働き方改革の推進を図る。</p> <p>イ 各種ハラスメント防止に関する意識の啓発を図り、働きやすい職場環境を実現する。</p> <p>ウ 管理職が積極的に教職員に働きかけることで教師への信頼感を育むとともに、教職員に対する相談の場を設ける。</p>	<p>ア 外部講師による健康増進維持または働き方改革のための研修会を年 1 回以上実施する。[新設]</p> <p>イ 外部講師による各種ハラスメント防止に関する意識の啓発の研修会を年 1 回以上実施する。[新設]</p> <p>ウ 教職員に対する規定以外の面談を年 1 回以上実施する。 [1 回]</p>	<p>ア・イ ・職員会議を通して、校長から働き方改革について、説明を行った。(△)</p> <p>ウ・校長による面談を実施した。(○) ・今年度の取組として、全校一斉退庁日とノークラブデーの設置(1 回/週)、学校閉庁日の設定(夏期 4 日、冬期 3 日)を行った。 ※学校閉庁日は、土日・祝日を含まずに換算しています。 ・次年度は更に校務運営の効率化に向けての働き方改革に取り組む。 R5 1 月 平均時間外勤務時間 14 時間 25 分(▲1.9%)</p>